

shindaiwa[®]

取扱説明書

高圧洗浄機 スピードジェットー

JEY820

JEY1512

JEY2015

⚠ 注意

安全のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

はじめに

このたびは、新ダイワの高圧洗浄機をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。
ございます。

- この取扱説明書は、本機を安全に正しく使用していただくために作成しています。本機の取り扱いを誤りますと事故や故障の原因となりますので、ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読みください。
- 本機の取扱いは、この取扱説明書の内容を理解し、安全な取り扱いができる人が行ってください。また安全作業上で影響がでるような病気・薬服用・体調不良のときは、本機の使用を控えてください。
- 本機を使用した作業や本機の取り扱いにおいては、関連する法律（労働安全衛生法、消防法等）およびその法律に基づく規則を遵守してください。
- 本機を貸し出すときは、必ず取扱説明書を添付し、よく読んでから使用するよう指導してください。
- この取扱説明書は、いつでもご覧いただけるよう、所定の場所に大切に保管してください。紛失・汚損・破損したときは、お求めの販売店にご注文ください。
- ご不明な点、お気づきの点がありましたら、お求めの販売店にご相談ください。また、本機についてのお問い合わせ時は、モデル名と製造番号をお知らせください。
- 本機を廃棄されるときは、産業廃棄物として関連法規に基づいた処理を行ってください。処理にお困りの場合は、お求めの販売店にご相談ください。

目次

1. 使用用途について	1
2. 各部の名称	1
3. 本機仕様	2
4. 警告ラベルの取扱い	3
5. ご使用上の注意	4
6. 付属品について	7
7. 運転準備について	8
8. 始業前点検について	11
9. 始動方法	12
10. 運転方法	15
11. 停止方法	16
12. 作業終了後について	16
13. ご使用後の注意	17
14. 保守・点検について	17
15. オイル交換について	20
16. 長期保管について	21
17. ポンプの故障診断と処置について	22
18. エンジンの故障診断と処置について	23

1 使用用途について

本製品は、次のような洗浄作業を目的とした製品です。

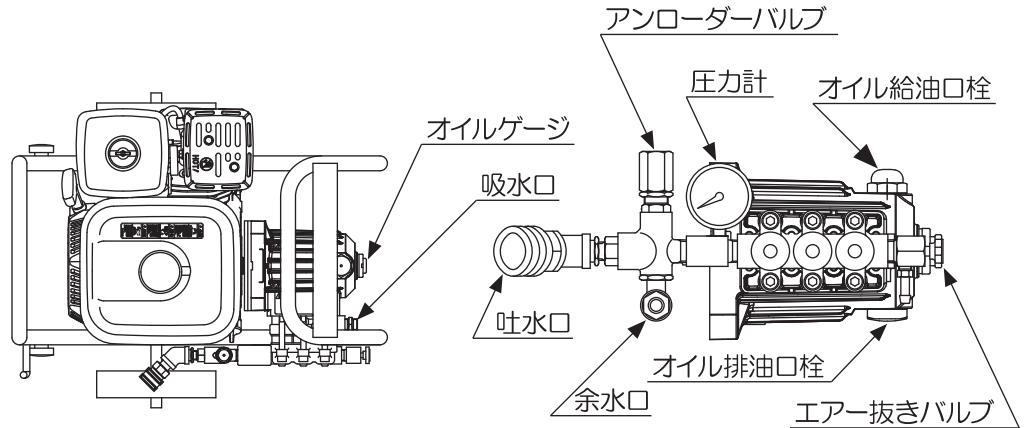
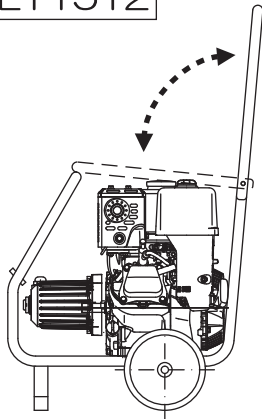
—農機具・自動車・土木・建設機械等・塗装前の洗浄作業—

この使用目的範囲を逸脱しての使用が原因で事故、及び許可なく改造及び分解を行い、それに伴って生じた事故に関しての一切の責任は、負いかねますのであらかじめご了承ください。

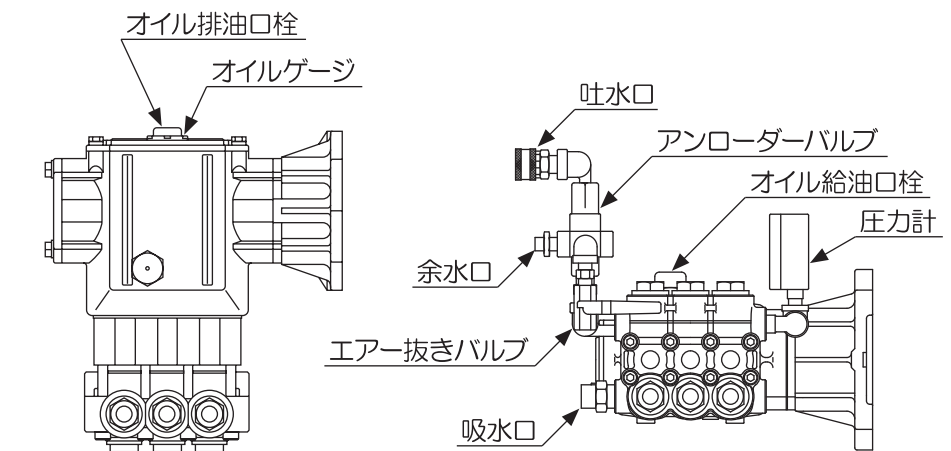
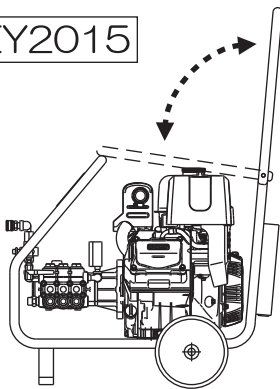
2 各部の名称

JEY820

JEY1512



JEY2015



3 本機仕様

	モデル	JEY820	JEY1512	JEY2015
ポンプ	名称	MW3SF53G	MW3SF30GZ	MW66DX35GG
	圧力 (MPa{kgf/cm ² })	7.8{80}	14.7{150}	19.6{200}
	吐水量(L/min)	20	12	15
	回転速度 (min ⁻¹ {rpm})	3600		
	潤滑油の種類/容量 (L)	ガソリンエンジンオイル(SG級以上)/0.3		ガソリン エンジンオイル (SG級以上)/0.55
	吸水液の種類/温度	清水/常温		
エンジン	名称	MX200		MX360
	形式	空冷4サイクルOHVガソリンエンジン		
	連続定格出力 (kW/min ⁻¹ {PS/rpm})	3.5/3600{4.7/3600}		7.3/3600{9.9/3600}
	排気量(L)	0.192		0.358
	燃料の種類	自動車用無鉛ガソリン		
	潤滑油の種類	ガソリンエンジンオイル(SG級以上)		
	潤滑油の容量(L)	0.6		1.1
	始動方式	リコイルスターター式		
	オイルセンサー	エンジンオイルセンサー付き		
装備	メーター	圧力計		
	調圧	アンローダーバルブ		
	エアー抜き	手動		
	燃料タンク容量(L)	3.9		6.1
	連続定格運転時間 (時間)	1.7	1.6	2.5
	外形寸法(mm)	560 X 470 X 890		750x550x1047
	乾燥質量(kg)	32		59
付属品	吸水ストレーナ	円盤型		
	吸水ホース	1/2" X 3m		
	余水ホース	3/8" X 3m		
	吐水ホース	3/8" X 20m カプラー付	3/8" X 30m (カプラー付)	
	噴射ガン	RL30-200V	ロングバリアブルノズル (RL30)	RL30-200V

4 警告ラベルの取扱い

⚠ 注意

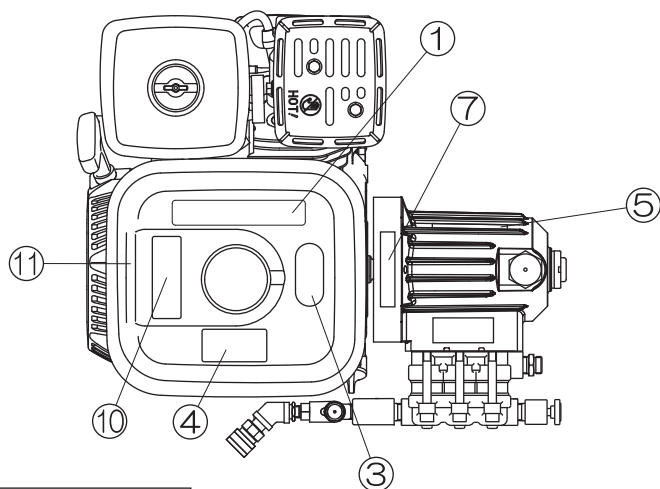
- いつも汚れを取り、表示内容がはっきりと見えるようにしてください。
- 警告ラベルが破損した場合は、最寄の取扱店に注文し、新しいものと交換してください。
- 警告ラベルを貼ってある部分を交換したときは、必ず取り外した部品と同じ位置に貼ってください。

*本機には次の警告ラベルが貼ってあります。よくお読みになって理解した上で作業してください。

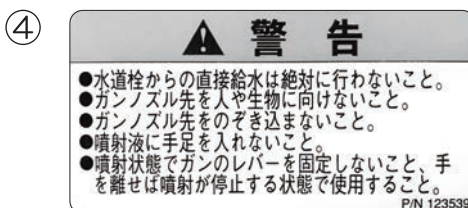
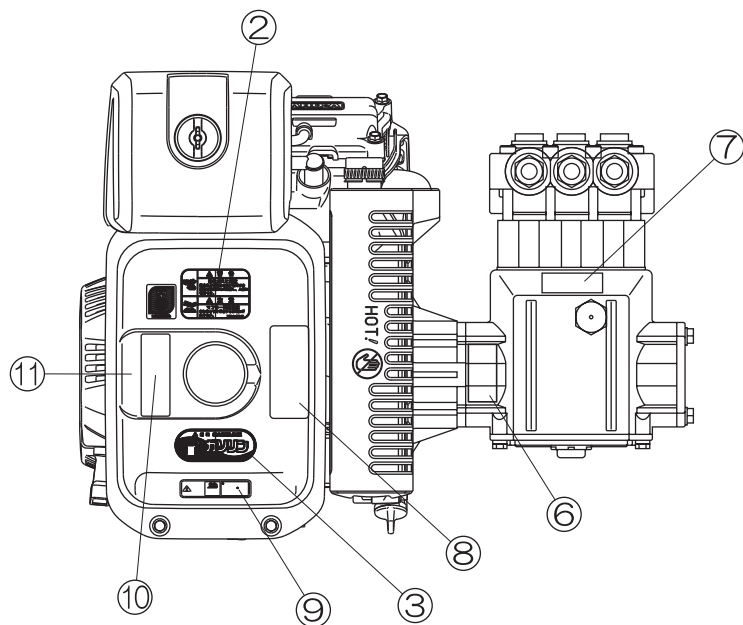
下記にその内容を記載してありますのでよくお読みください。

JEY820

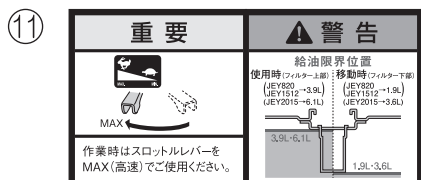
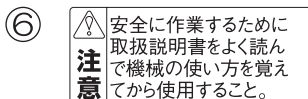
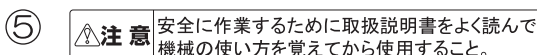
JEY1512



JEY2015



(JEY2015はフレームに貼っています。)



○ご使用前に、この説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

- ▲ 警告・・・誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
- ▲ 注意・・・誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示します。
- 重要・・・誤った取り扱いをすると、機械の損傷を引き起こす恐れのある内容を示します。

5 ご使用上の注意

(1)燃料について

▲ 警告

- 燃料の点検や給油は、必ずエンジンを停止し冷えたのち、静電気を除去してから行ってください。燃料に引火して火災の原因となります。
- 燃料補給や手入れをするときは火気に近づけないでください。
- 燃料は可燃性です。燃料を補給するときは、エンジンを停止してください。また、燃料をこぼさないよう注意してください。
- 燃料もれがある場合は絶対に使用せず、必ず修理してください。

(2)エンジンについて

▲ 警告

- 配線及びマフラー、エンジン周辺部にゴミや燃料の付着・ほこりの堆積があると火災の原因となりますので、取り除いてください。
- 室内やトンネルの中など換気の悪いところでは運転しないでください。排気ガスを吸って一酸化炭素中毒になる恐れがあります。
- 始動時や運転中に点火プラグや高圧コードに触れないでください。感電する恐れがあります。

▲ 注意

- エンジンは、運転中・停止直後は高温です。マフラー、シリンダー、ヘッド、フィン等に触れると火傷します。
- エンジン始動時に機械を支えるときは、エンジンのマフラーを持たないでください。

重要

- 作業時はスロットルレバーをMAX(高速)でご使用ください。

(3)本機について

<準備及び作業前の注意事項>

⚠ 警告 :感電

- 始動時や運転中に点火プラグや高圧コードに触れないでください。

⚠ 注意 :火傷、けが

- 取扱説明書をよく読んで機械を操作してください。
- 点検・準備・整備はエンジンを停止して行ってください。
- 作業員以外の人や動物を作業領域に近づけないでください。
- 作業前に試運転をし各部の異常や漏れがないことを確認してください。
- 水道蛇口などの飲料水源及び生物を飼育している湖沼からの直接給水は絶対に行わないでください。

<移動時の注意事項>

⚠ 注意 :火傷、けが

- 運転中に本機を移動させないでください。移動はエンジンが十分冷えてから行ってください。
- 本機は重量物です。無理な姿勢で持ち上げたり移動したりしないでください。
- 車両にて移動するときは固定してください。また燃料タンクから燃料を抜いてください。抜いた燃料や予備の燃料は、消防法に適合した携行タンクで保管・運搬してください。

<設置時の注意事項>

⚠ 警告

- 設置した際に、排気方向はふさがらないでください。排気ガスや排気熱により、一酸化炭素中毒の原因になります。排気口は風通しのよい広い場所に向けてください。またカバーなどを掛けた状態で使用しないでください。
- マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物(燃料・ガス・塗料など)や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。
- 本機は、壁などの障害物から1m以上離し、水平な場所で運転してください。
- 本機の周囲を囲ったり、箱をかぶせて運転しないでください。
- 本機は平坦な場所に設置してください。傾斜した状態で使用すると、振動で移動又は転倒し、事故や火災の原因となることがあります。また、雨や雪にさらさないでください。
- 車両に積載して運転しないでください。火災及び、一酸化炭素中毒の原因になります。
- 排気ガスを通行人や民家などに向けしないでください。

<始動前の注意事項>

⚠ 注意

- 作業中の危険・トラブル防止のため、必ず始業点検してください。
- 吐水ホースや噴射ガンの接続を確認してください。
漏れや外れによりホースが振れて高圧水を浴びたり、けがをすることがあります。

<洗浄作業の注意事項>

警告

- タンク内などの閉所作業の場合はガス点検、換気などを十分注意した上、命綱(必要ならばガスマスク)を装着し、作業者を他の人が監視してください。
- 高所作業の場合は、命綱を着用してください。労働安全衛生法に従ってください。

注意

- 洗浄作業はできるだけ周囲を片付けてから行ってください。無理な姿勢での作業はしないでください。けがをする原因となります。
- 必要に応じて、被洗浄物の回りをシートで覆い、隣接物への飛沫を防止してください。

<運転時の注意事項>

警告

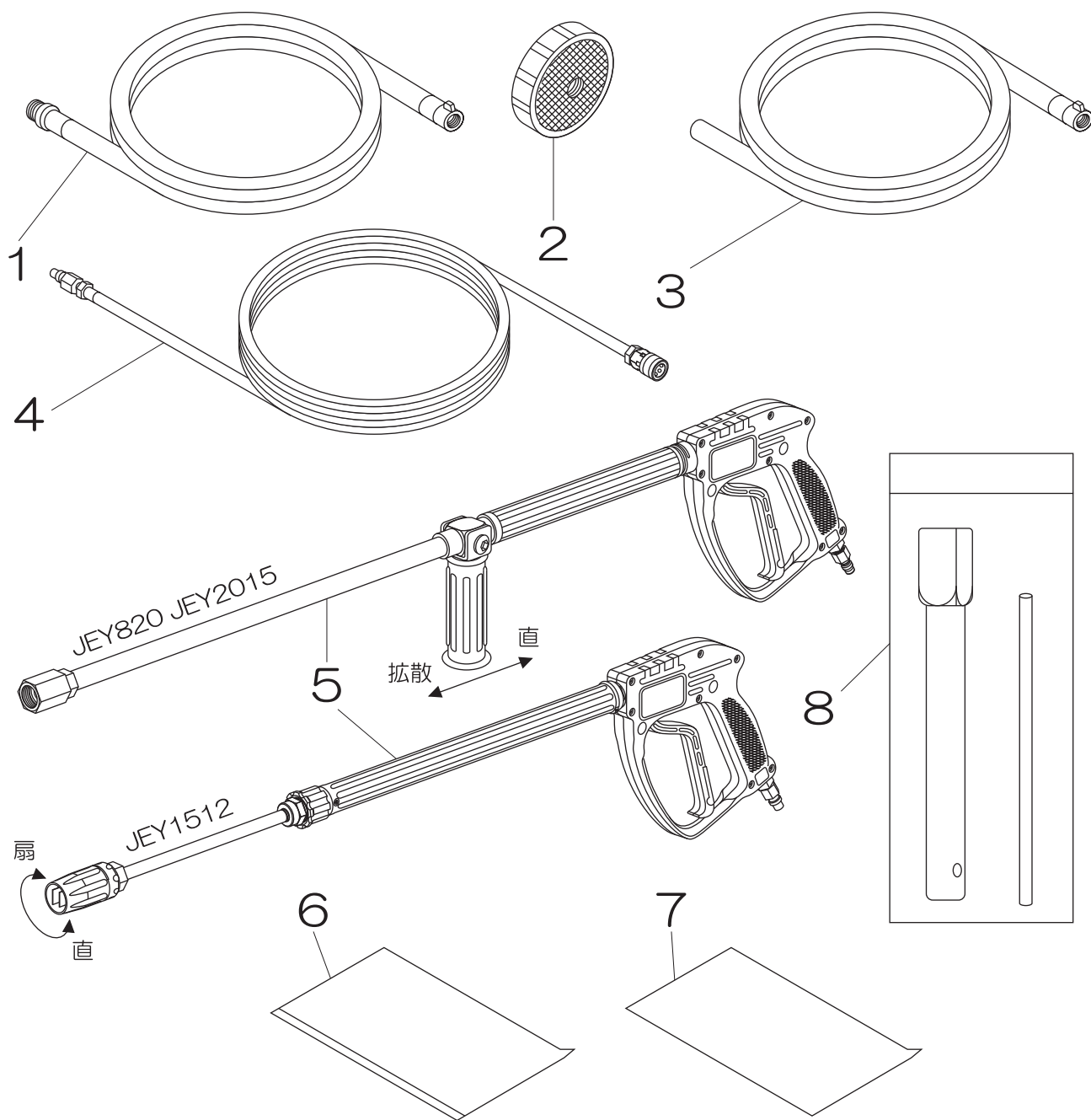
- 噴射ガンの先は絶対に人や動物に向けないでください。噴射停止の状態でも圧力調整装置(アンローダ)の構造上、吐水ホースに高圧水が残圧として封入されていますので不意の噴射で高圧水を浴びる恐れがあります。
- 噴射流の中に手足を入れないでください。けがをします。
- 噴射ガンのガンレバーは絶対にひもや針金等で固定して使用しないでください。必ず手を離せば噴射が停止するように使用してください。緊急時の対応が遅れるばかりでなく、固定したままで噴射ガンが手から離れますと、噴射ガンが振れて高圧水を浴びたり、けがをすることがあります。

<運転時の注意事項>

注意

- 本機に水をかけたり、雨中での使用はしないでください。
- エンジン始動の際、ガンレバーが開にならないように「ロック」していることを確認してください。
- 噴射するときは安定した場所で両手でしっかりと噴射ガンを携えてから作業を開始してください。
- 吐水ホースを偏った方向から引っ張ったり、ホースで本機を引っ張らないでください。ホースを痛め、漏れにより高圧水を浴びたり、本機が転倒して火災やけがの原因になります。特に作業中は吐水ホースに余裕を持たせ、本機の転倒・移動には十分注意してください。
- 運転中及び運転直後のエンジン(特にマフラー)、エンジンオイル、ポンプおよびポンプオイルは高温ですので触れないでください。
- 作業中に機械の調子が悪かったり、異常に気がついた場合は、直ちに作業を中止して(エンジン停止)原因を調べてください。点検・修理は販売店に依頼してください。

6 付属品について



<標準付属品>

番号	名称	数量	JEY820	JEY1512	JEY2015
1	吸水ホース	1		1/2"×3m	
2	吸水ストレーナ	1		円盤型	
3	余水ホース	1		3/8"×3m	
4	吐水ホース	1	3/8"×20m(カプラー付き)	3/8"×30m(カプラー付き)	
5	噴射ガン	1	RL30-200V	ロングバリアブルノズル(RL30)	RL30-200V
6	取扱説明書	1		—	
7	保証書	1		—	
8	エンジン用工具	1		プラグレンチ・バー	

7 運転準備について

(1)このような方は使用しないでください。心身ともに健康な状態で作業しましょう。

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により正常な作業ができない人
- 正しい取り扱い、操作ができない人
- 作業者以外の人
- 若年者(15歳未満)の人
- 酒気をおびた人
- 妊娠している人

(2)作業に適し身体に合った服装で作業してください。

- ヘルメット
- 作業靴(長靴)
- 保護眼鏡
- 耳栓(騒音作業)
- 保護防水服
- 保護ゴム手袋
- 保護マスク(必要に応じて)

(3)設置

警告

- エンジンは、室内やトンネルの中など換気の悪いところでは運転しないでください。一酸化炭素中毒になります。

注意

- 本機には作業者以外の人や動物を近づけないでください。
- 周囲に火気やガソリンなどの危険物、燃えやすいものがないことを確認してください。
- エンジンの排気方向は塞がないでください。
- 本機は平坦で安定した場所に設置してください。傾斜地では振動で移動し転倒することがあり、火災やけがの原因となります。

重要

- 設置するときは衝撃を与えないでください。故障の原因となります。

(4)エンジン

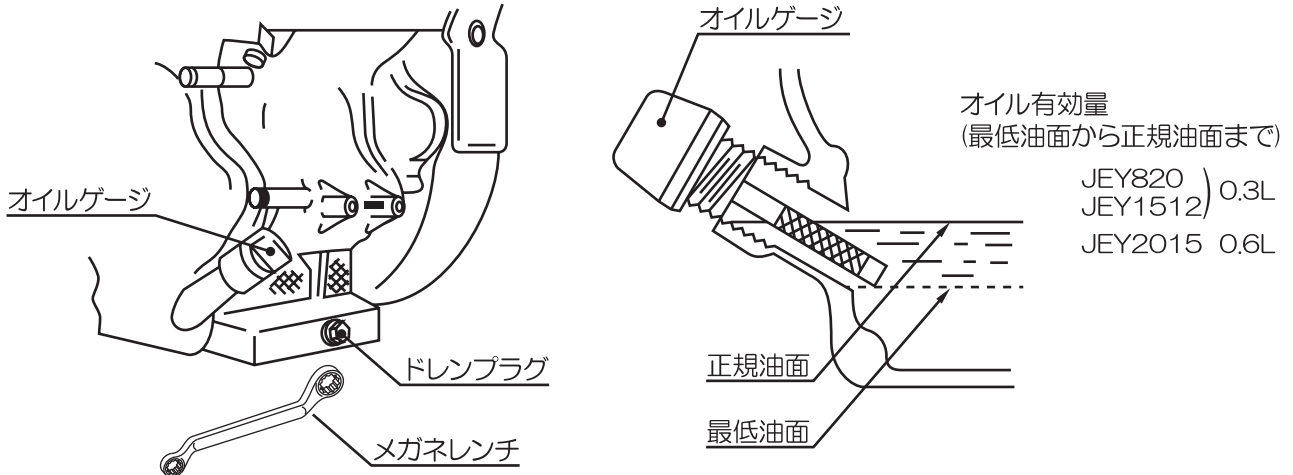
①エンジンオイルを給油又は補充してください。

※オイルセンサーが標準装備されていますので、オイル量が不足するとエンジンを始動できません。

(JEY2015のみオイル警告ランプ付き)

※エンジンオイルを給油又は補充の際は、エンジンを水平状態で行ってください。

②エンジンオイルを抜く際は、メガネレンチを使用してドレンプラグを外してください。



オイル有効量
(最低油面から正規油面まで)

JEY820) 0.3L
JEY1512)
JEY2015 0.6L

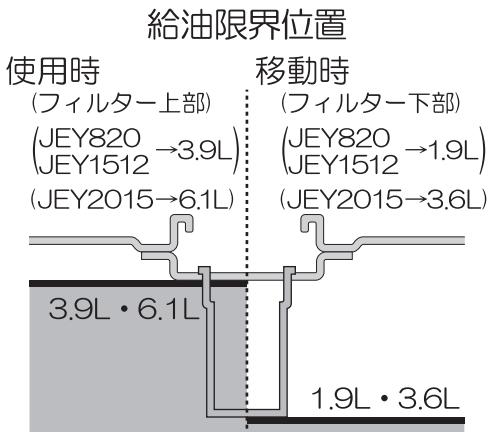
オイル交換方法

SG級以上SAE10W-30のオイルを使用してください。

- 油量は正規油面(JEY820、JEY1512-0.6L JEY2015-1.1L)まで補給してください。
- オイルゲージは確実に締めてください。

③エンジンの燃料タンクに自動車用無鉛ガソリンを給油又は補充してください。

火災の恐れがありますので、下記の事項をお守りください。



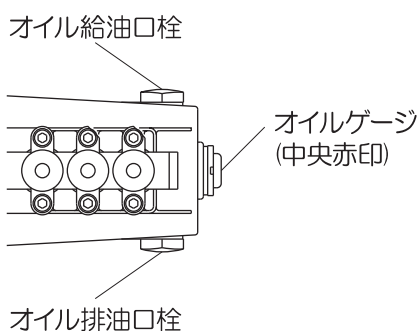
警告

- 給油中はエンジンを停止してください。
- 給油中は火気を近づけないでください。
- 漏れた燃料は必ずふき取ってください。
- 燃料タンクの栓は確実に締めてください。
- 運搬時はガソリン漏れの恐れがある為、移動時給油限界位置を厳守してください。
- 運搬時はできるだけ機械を傾斜させないようにしてください。大きく傾斜させるとガソリンがこぼれる場合があります。

(5)ポンプ

①ポンプへオイルを給油又は補充してください。

SG級以上SAE10W-30のオイルを使用してください。

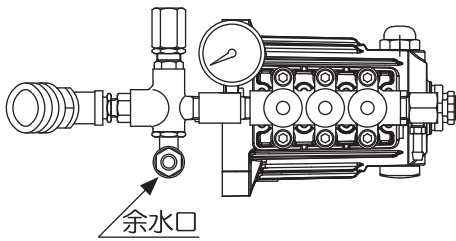


- 油面がオイルゲージ窓の中央(JEY820、JEY1512-0.3L JEY2015-0.55L)にあることを確認してください。
- オイル注入後、給油口栓は、確実に締めてください。

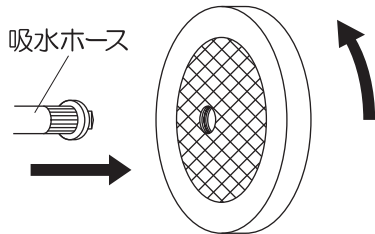
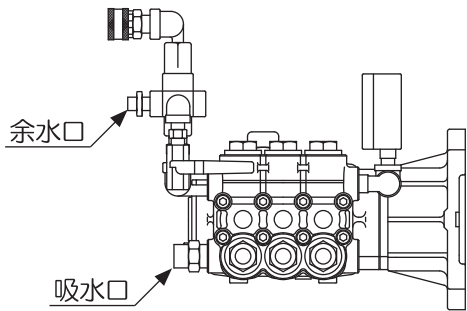
※上図はJEY1512のポンプを示しています。

(6)標準付属品の取り付け

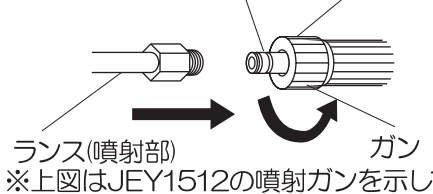
●JEY820・1512



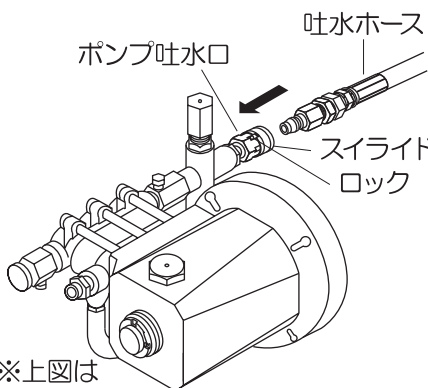
●JEY2015



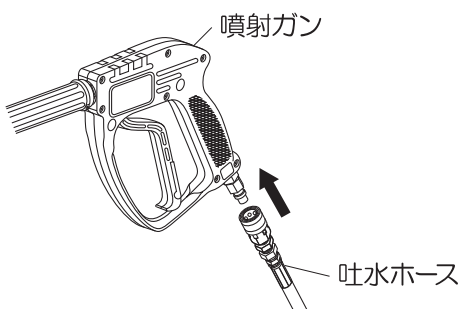
リング 固定ノブ



※上図はJEY1512の噴射ガンを示しています。

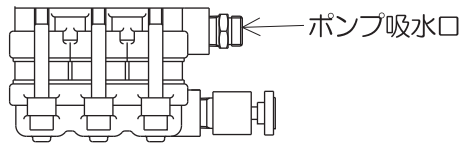


※上図はJEY1512の吐水口位置を示しています。



●余水ホース

余水口に余水ホースを取り付けてください。



●吸水ホース

取り付ける際はネジ部にあるパッキンの紛失や損傷がないか確認してから吸水口に確実に締め付けてください。

重要

●吸水ホースに不良があると、機械の振動や吸水不良につながり、ポンプの寿命を縮めてしまいます。

●吸水ストレーナー

吸水ホースに取り付けてください。

重要

●取付時は目詰まりがないか確認してください。
目詰まりしている時は掃除をしてからご使用ください。

●噴射ガンの組立

リングの損傷、紛失がないか確認してからランス(噴射部)をガンに押し込んで、固定ノブをまわして取り付けてください。

●吐水ホースのポンプ取り付け

- ①スライドリングを回しカプラをロック解除してください。
- ②吐水ホースのカプラ(プラグ)をポンプ吐水口のカプラ(ソケット)にカチンと音がするまで押し込んでください。
- ③吐水ホースを引いて外れない事を確認してください。
- ④スライドリングを回し、カプラをロックしてください。

●吐水ホースの噴射ガン取り付け

- ①スライドリングを回しカプラをロック解除してください。
- ②噴射ガンの接続口カプラ(プラグ)に、吐水ホースのカプラ(ソケット)にカチンと音がするまで押し込んでください。
- ③吐水ホースを引いて外れない事を確認してください。
- ④スライドリングを回し、カプラをロックしてください。

8 始業前点検について

事故や故障を未然に防ぐために機械の状態をいつも知っていることが大切です。

始動前に必ず下記の点検を行ってください。

⚠ 注意

- けがや事故防止のために、点検整備を行う場合は必ずエンジンを停止し、水平な明るい場所で行ってください。
- エンジンをかけた状態で点検整備を行う必要がある時は、自分で行わず必ずお求めの販売店か弊社営業所に問い合わせてください。けがや事故の原因となります。

点 検 箇 所		点検内容	処置
分 類	項 目		
全 体		ネジの緩み、脱落はないか 変形、損傷はないか ゴミやほこりはないか	点検、締め付け 修理を依頼 掃除
エ ン ジ ン	潤 滑 油	規定量のオイルが入っているか オイルが汚れていないか オイル漏れはないか	規定レベルまで補給 交換 修理を依頼
	燃 料 タ ン ク	燃料の漏れはないか 燃料が入っているか	修理を依頼 燃料を給油
	エアクリーナー	エレメントは汚れていないか	掃除
ポ ン プ	潤 滑 油	規定量のオイルが入っているか オイルが汚れていないか オイル漏れがないか	規定レベルまで補給 交換 修理を依頼
	アンローダバルブ	損傷はないか	交換
ホ ー ス 類	ス ト レ ー ナ ー	ストレーナの目詰まりはないか ストレーナの破損はないか	掃除 交換
	吸 水 ホ ー ス	ホースの損傷はないか	交換
	吐 水 ホ ー ス	パッキンの損傷、紛失はないか ネジ部の損傷はないか	交換、補充 交換
噴 射 ガ ン	ガ ン 部	ガンレバーの作動は正常か	修理を依頼
	ノ ズ ル 部	詰まりはないか	掃除
	ホ ー ス 接 続 口	ネジ部の損傷はないか 接続口に異常はないか	交換 交換

9 始動方法

(1)水タンクの中のゴミや沈殿物を取り除いて清水(水道水)をご使用ください。

⚠ 注意

- 水道蛇口など飲料用水道及び生物を飼育している湖沼からの直接吸水は絶対に行わないでください。

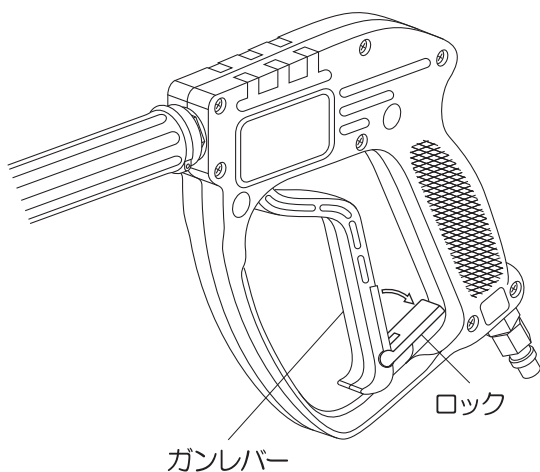
重要

- ストレーナが目詰まりしたまま運転しないでください。吐出圧力の低下、脈動などを引き起こしポンプ故障の原因となることがあります。
- 吸水ストレーナを外して運転しないでください。ゴミにより、バルブの作動不良、パッキンの磨耗等、故障の原因となりますので必ず装着してください。
- 吸水ストレーナが完全に沈むようにしてください。吸水できなくなります。
- 吸い込み揚程(吸水ストレーナからポンプ吸水口までの高さ)は0.3m以上にならないようにしてください。吸水できなくなります。
- 吸水ホースがタンクの縁でつぶれないようにしてください。吸水できなくなります。
- 余水ホースはタンクから飛び出さないよう固定してください。

(2)エンジンオイル量を確認してください。

オイルが規定量ないとオイルセンサーが働きエンジン始動ができません。

(3)噴射ガンのレバーをロックしてください。



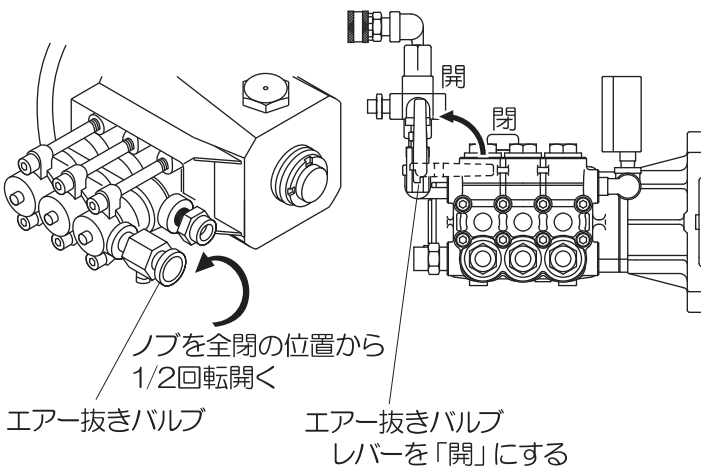
⚠ 注意

- ガンレバーをロックしていないと、不意にノズルから噴射する恐れがあり、事故の原因となることがあります。

(4) エア抜きバルブを開いてください。

JEY820
JEY1512

JEY2015



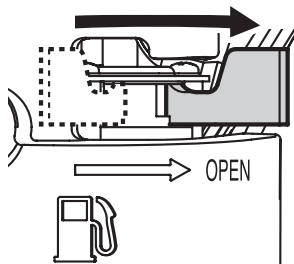
重要

- エア抜き作業を行わないと、規定の圧力まで上昇しなかったり、圧力振動を起し、故障の原因となります。
- 30秒以内に吸水しない場合には直ちにエンジンを停止し、吸水ホースの接続、ストレーナや水源をもう一度確認してください。
- エア抜き作業をしても吸水できない場合は、ビニールホース等で水を送り込んでください。エア抜きバルブから水が出たら吸水ホースを元に戻してエア抜き作業を行ってください。それでも吸水しない場合は販売店に点検・修理を依頼してください。

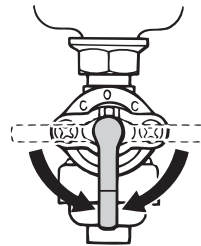
(5) エンジンに燃料を補給してください。この時、給油限界量を超えないように注意してください。補給後、燃料キャップは確実に締めてください。

(6) 燃料コックを開いてください。

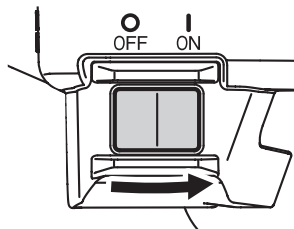
● JFY820・1512



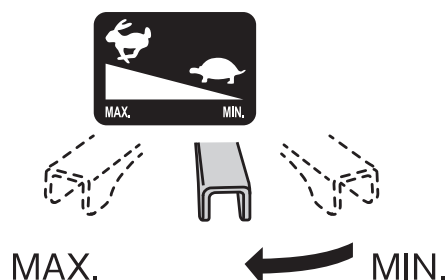
● JFY2015



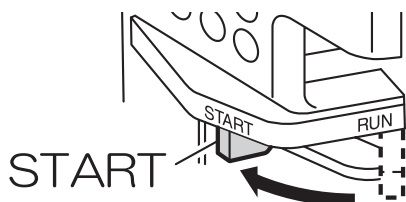
(7) エンジンスイッチをONにしてください。



(8) スロットルレバーをMAX.とMIN.の間回りまでレバーを動かしてください。



(9) チョークレバーをSTARTの位置にしてください。

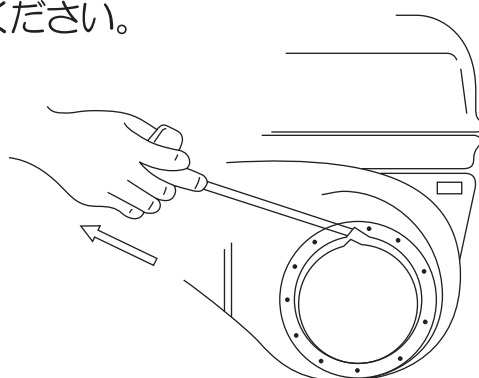


(JEY2015に関しては、再始動時の環境、洗浄機の状況に応じてチョークノブの操作が必要になる場合がございます。)

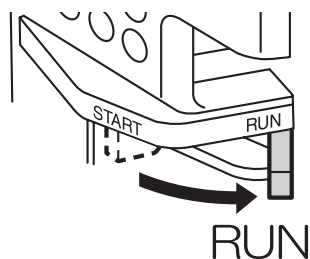
⚠ 注意

- 運転中や停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっておりますので触れないでください。火傷します。

(10) スタータグリップを重く手応えのあるところ(圧縮位置)まで軽く引き、この位置から勢いよく引っ張ってください。



(11) エンジンがかかったら、チョークレバーを戻しRUNにしてください。



(12) エンジンが回転を始めるとポンプも回り始め、エア抜きバルブから水が勢いよく出ることを確認してください。

重要

- 吸水しない状態のまま30秒以上の空運転はしないでください。ピストンパッキンを損傷することがあります。

(13) エア抜きバルブをしっかりと閉めこんでください。

(14) スロットルレバーをMIN(低速)にして1~2分間ほど暖機運転してください。

(15) 異常音、異常振動、水漏れがないか確認してください。

※作業中一旦エンジン停止した後の再始動の方法

重要

- 再始動する場合も、必ず手順4のエア抜きバルブ操作を行ってください。
- 再始動時の環境、洗浄機の状況に応じてチョークノブの操作が必要になる場合がございます。

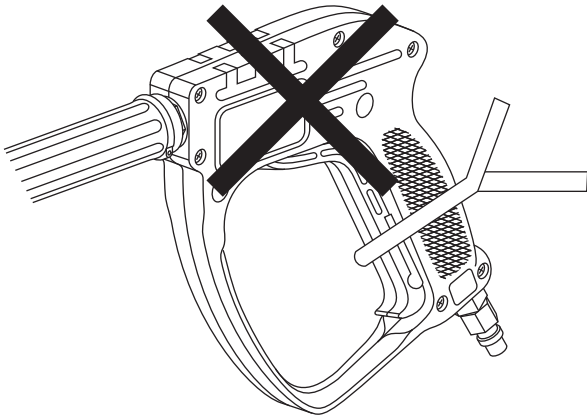
10 運転方法

(1)エンジン始動の状態から、スロットルレバーをMAX(高速)にします。

重要

- エンジンのスロットルレバーをMAX(高速)以外の位置で使用されますと故障の原因となります
- ポンプ、エンジン、フレームに異常音や振動がないか確認してください。異常音、振動、水漏れがある場合は、エンジンを停止し、処置をしてから作業してください。

(2)ガンレバーのロックを解除してください。



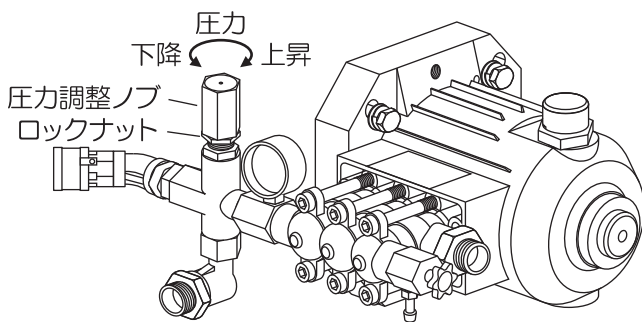
警告

- ノズル先を人や生物に向けないでください。負傷する場合があります。
- 噴射流の中に手足を入れしないでください。負傷する場合があります。
- ガンレバーは絶対に噴射状態でひもや針金などで固定しないでください。必ず手を離せば噴射が停止するようにしてご使用ください。事故の原因となります。

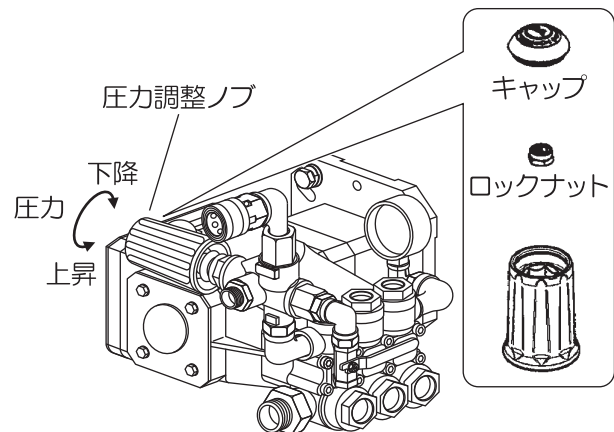
(3)噴射ガンをしっかり保持し、ノズルの先を被洗浄物に向けてガンレバーを握り、高圧水を噴射させます。レバーを離せば噴射は停止します。

(4)噴射ガンをしっかり保持し、ノズルの先を被洗浄物に向けてガンレバーを握り、圧力調整ノブを右へ回すと圧力が高くなり、左へ回すと低くなります。出荷時は最高使用圧力に調整し、ロックナットで固定しています。

●JEY820・1512



●JEY2015



(5)噴射ガンより水を吐出しないと圧力は上がりません。周囲の安全を確認し、(4)の要領で圧力を調整してください。尚、JEY820・1512は圧力調整ノブを緩め過ぎると外れてしまいますのでご注意ください。(圧力調整時は工具が必要です。)

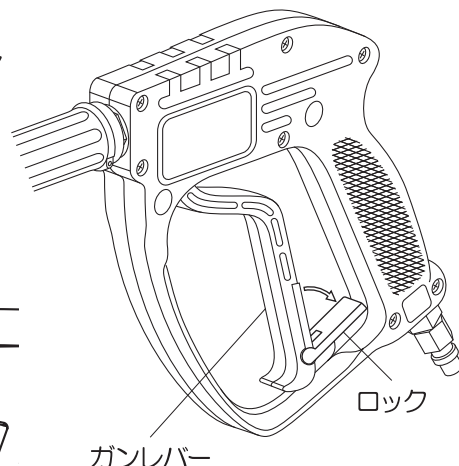
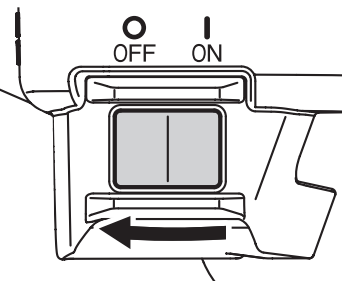
重要

- タンク内の水の残量に注意し、ポンプが吸水しなくなったら直ちにエンジンを停止してください。
- 機械全体の振動に注意して、振動の多い回転数(共振点)では使用しないでください。

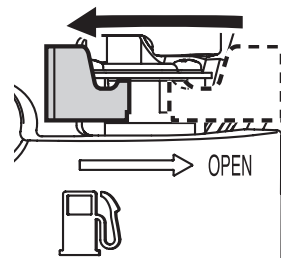
11 停止方法

- (1)作業が終了したら、ガンレバーを離して噴射を停止しガンレバーのロックをしてください。
- (2)エンジンのスロットルレバーをMIN(低速)にして、1～2分間冷却運転してください。
- (3)エンジンスイッチをOFFにしてエンジンを停止させてください。

※緊急停止するときは
エンジンスイッチを
OFFにしてください。



- (4)ガンレバーをロック解除後に握り、吐水ホース内の圧力を抜いて再びガンレバーをロックしてください。
- (5)エンジンの燃料コックを閉じてください。



⚠ 注意

- 冷却運転を行わずにエンジンを停止すると爆発音が発生することがあります。

重要

- 緊急停止は機械に負担をかけますので、緊急時以外では行わないでください。

12 作業終了後について

作業終了時は、次の手順でポンプ内の水抜きを行ってからエンジンを停止してください。

⚠ 注意

- 吐水ホースを外すときは、ガンレバーを握り、残圧を抜いてから外してください。高圧水を浴びる恐れがあります。

- (1)エンジンがかかった状態で吸水ホース(吸水ストレーナ)と余水ホースをタンクから引き上げてください。
- (2)余水ホースから水が出なくなってポンプ内の水が抜けたら、すぐにエンジンを止めてください。
- (3)ガンレバーを握り、吐水ホース内の残圧を抜いてください。
- (4)本機から吐水ホースと噴射ガンを外して、吐水ホース内の水を抜いてください。接続部にゴミや砂が付かないように注意してください。

重要

- 水抜き運転はポンプ内の保護のため、30秒程度にしてください。
- 酷寒時にはポンプ、ホース内の水抜きを必ず行ってください。凍結により機械を破損することがあります。

- (5)吸水・余水ホースを外し、水気をよくきります。接続部にゴミや砂が付かないように注意してください。
- (6)凍結破損防止のため、エア抜きバルブは開けておいてください。
- (7)エンジンの燃料コックを閉じてください。
- (8)各部をきれいに拭いて機械(エンジン)が十分冷えてからカバーをかけ、湿気のないところに格納してください。

13 ご使用後の注意

⚠ 注意

- 保護具は常に正常な機能を有するように点検・整備してください。
- 損傷箇所や不具合箇所がある場合は、修理を終えてから格納してください。
- 修理部品、消耗部品は、全て当社指定の純正部品をご用意ください。
- エンジンが完全に冷えてから格納してください。火災の原因になります。
- 湿気の少ない場所に、ほこりやゴミが堆積しないように保管してください。火災の原因となります。

14 保守・点検について

機械を常に正常な状態で使用するために、定期的に保守、点検を励行してください。

⚠ 注意

- 点検整備を行う場合は、必ずエンジンを停止させてから行ってください。
- エンジンをかけた状態で、点検・整備を行う必要がある場合は、自分で行わず、必ずお求めの販売店か弊社営業所に依頼してください。

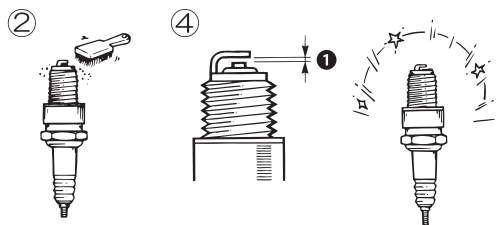
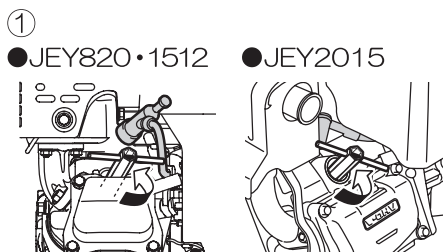
<ポンプ部>

運転時間	50時間ごと	100時間ごと
オイル交換	初回	2回目より

- ポンプのオイル交換は、20ページの「オイルの交換」を参照してください。
- 始業前点検は11ページを参照してください。

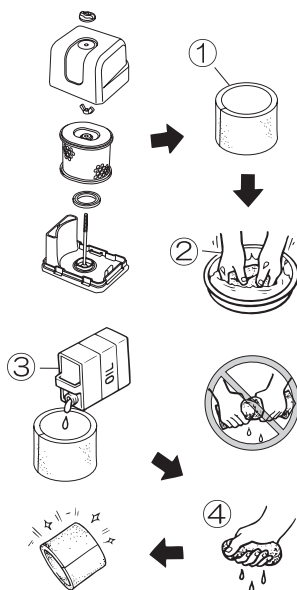
<エンジン部>

点検項目	作業内容	始業前点検 (毎日)	最初の1ヶ月 または 20時間経過後	3ヶ月毎 または 50時間毎	6ヶ月毎 または 100時間毎	12ヶ月毎 または 300時間毎
スパークプラグ：	カーボンを除去します。 ギャップを調整します。 必要に応じて交換します。			●		
エンジンオイル：	オイルの量を確認します。 交換します。	●	●		●	
エアフィルター：	清掃します。 必要に応じて交換します。			●		
フューエルフィルター：	清掃します。 必要に応じて交換します。				●	
バルブクリアランス：	ヤマハ販売店またはサー ビス店に点検・調整を 依頼してください。					●
スパークアレスター：	清掃します。 必要に応じて交換します。				●	
カーボン除去：	ヤマハ販売店またはサー ビス店に点検・清掃を 依頼してください。					●



●スパークプラグ

- ①スパークプラグを取り外します。
- ②付着しているカーボンを取り除きます。
- ③焼け具合を点検します。
標準：若干色づいた薄い灰色
- ④スパークプラグギャップ①を点検します。
標準スパークプラグの種類とギャップ：BPR4ES (NGK)
①0.7-0.8 mm



●エアフィルター

- ①フォームエレメント
 - ②白灯油で洗浄します。
 - ③エンジンオイル(2ページを参照。)
 - ④絞ります。
- 決して、エレメントのない状態でエンジンを始動しないでください。

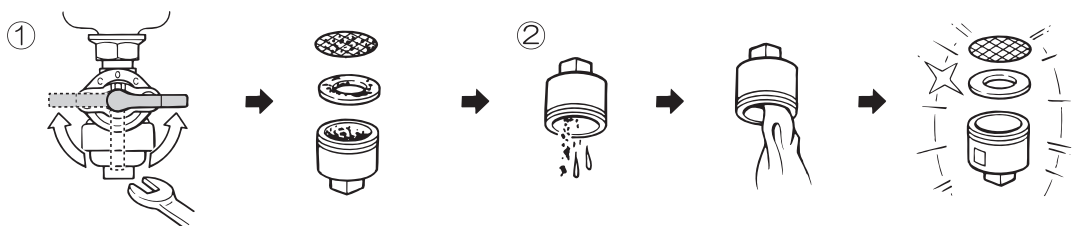
●フューエルフィルター

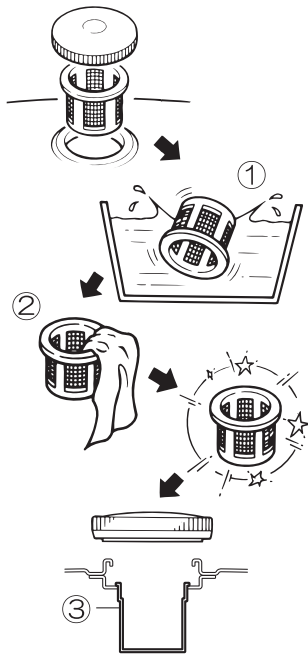
- ①フューエルコックレバーを“OFF”にします。
- ②ガソリンを使って清掃します。
- ③カップ取付け後は、燃料コックを開いて燃料もれがないことを必ず確認し、確認後は燃料コックを閉じてください。

①
●JEY820・1512



●JEY2015

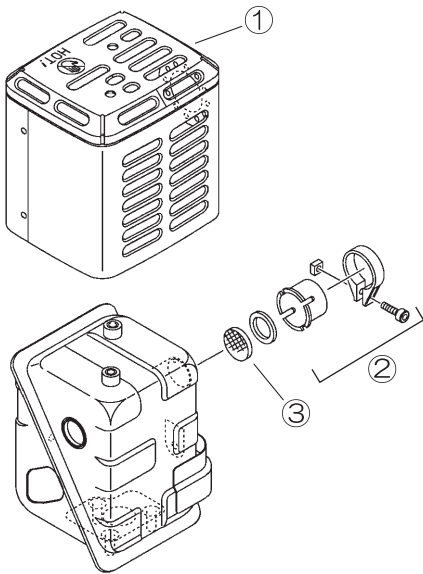




●フューエルタンクフィルター

- ①ガソリンを使ってフューエルタンクフィルターを清掃します。
- ②拭き取ります。
- ③挿入します。

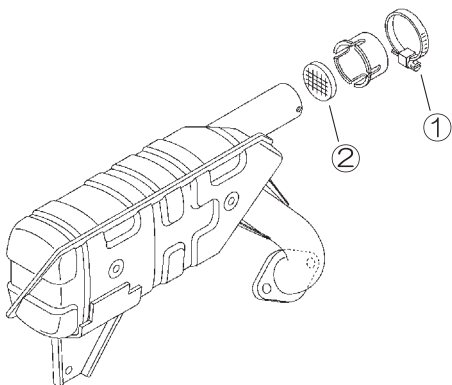
●JEY820・1512



●ネットワイヤ(JEY820・1512)

- ①マフラーカバーを外します。
- ②バンドを緩めサイレンサ・キャップを外します。
- ③ネットワイヤを外します。
- ④ワイヤブラシでやさしく、堆積したカーボンを取り除きます。
- ⑤ネットワイヤ・キャップ・サイレンサーを取り付け、バンドを締めます。
- ⑥マフラーカバーを取り付けます。

●JEY2015



●ネットワイヤ(JEY2015)

- ①バンドを緩めキャップを取り外します。
- ②ネットワイヤを外します。
- ③ワイヤブラシでやさしく、堆積したカーボンを取り除きます。
- ④ネットワイヤ・キャップを取り付け、バンドを締めます。

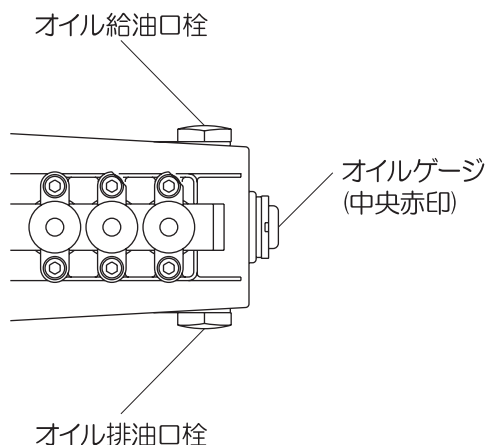
15 オイル交換について

機械の性能を維持するために、古くなったオイルは定期的に交換してください。

⚠ 注意

- 運転停止直後のオイルは熱いので、十分冷えてから交換してください。停止直後のオイルが手にかかると、火傷することがあります。
- オイル交換した廃油は、オイル購入先にご相談の上処理してください。
- オイルは子供の手の届かないところにおいてください。

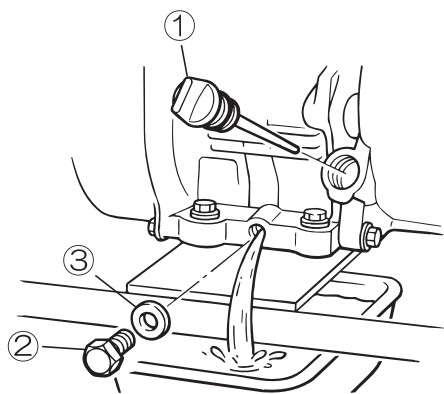
(1) ポンプオイルの交換



※上図はJEY1512のポンプを示しています。

- ポンプのオイル交換は、下記の時間を目安に励行してください。
初回：50時間、2回目より：100時間
- オイル排油口栓を外して、オイルを抜いてください。
(オイルはSG級以上SAE10W-30を入れてください。)
- オイルの量の確認は、本機を水平にしてから行ってください。
- 油面がオイルゲージ中央にあることを確認してください。

(2) エンジンオイルの交換



- ① オイルゲージを外します。
- ② オイルドレンボルトを外し、オイルを排出します。
- ③ オイルドレンボルトと新品のガスケットを元の位置に取り付けます。
- ④ オイルを正規油面まで給油してください。

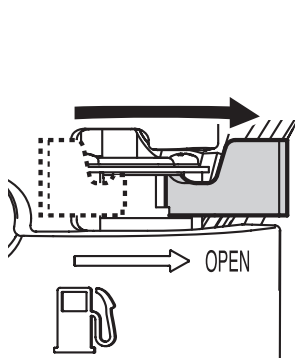
16 長期保管について

長い間使用しない場合は、次の要領で手入れしてください。

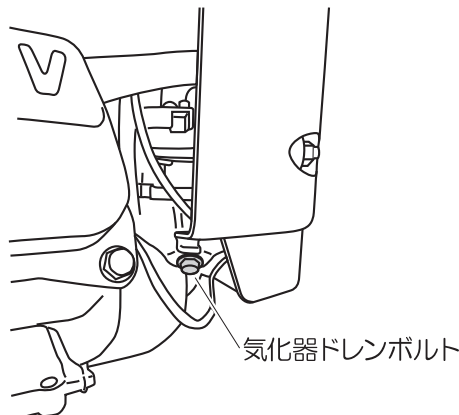
重要

- 本機の保管は、凍結の恐れのない、乾燥した場所を選んでください。また、凍結防止のため、下記の水抜き作業を行ってください。
 1. 吸水ホースを取り外します。
 2. 吐水ホースを取り外します。
 3. エンジンを始動し、低速で30秒間運転し、ポンプ内の水を抜き、エンジンを止めます。
*空運転を長時間続けると、ポンプを傷めますので、直ぐに停止してください。
 4. 吐水ホース、吸水ホース、噴射ガン内の水を抜いて保管します。
*噴射ガンはホースを外し、ノズルを上に向けて、噴射ガンのレバーを引くと、早く水を抜くことができます。
- 燃料を入れたままで保管すると、燃料が変質して気化器が詰まる原因となります。
- オイルは使用しない場合でも自然に劣化します。6ヶ月に1度は新しいオイルと交換してください。

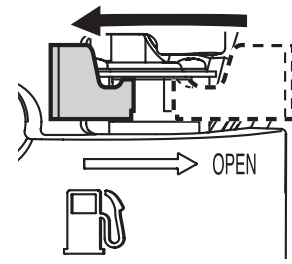
- (1)保守点検項目(17ページ)を確認し、不具合箇所を整備します。
- (2)作業終了後について…(16ページ)の項目を行ってください。
- (3)エンジンの燃料タンク・燃料コック、気化器内のガソリンを抜いてください。



燃料コックを開いてください。



気化器ドレンボルトを外します。



燃料が全て抜けたら燃料コックを閉じて、気化器ドレンボルトを締めてください。
※ドレンボルトパッキンが破損していないか確認してください。

- (4)オイル交換の時間に達しなくてもオイル交換してください。
- (5)塗装のはがれた部分はサンドペーパー等で錆を落とし、ペンキを塗ってください。
- (6)本機をよく乾燥させてオイルのしみた布で拭き、さび止めをしてください。
- (7)スタータグリップを引いて重く手応えのあるところ(圧縮位置)で止めてください。
- (8)本機はカバーを掛けて湿気のない冷暗所に格納してください。
- (9)ホースの上に重いものをおかないでください。変形、割れ等の原因となります。

17 ポンプの故障診断と処置について

ポンプの故障診断と処置は、日常起こりやすい故障と、その処置を示したものです。
万一故障が起きた場合は、下記表を参考の上、適切な処置を行なってください。

状 況	部 分	原因	対策
A 水を吸い込まない もしくは 吸い込みにくい	伝動部	キーの磨耗・損傷	交換
	吸水部品	吸水ストレーナにゴミの詰まり	掃除
		吸水ホースの損傷、屈折	補修・交換
		吸水接続パッキンの異常	補修・交換
接続不良		正しく接続	
吸水位置	吸水揚程が高すぎる	揚程を低くする	
吸水部及び 加圧部	吸水弁・吐出弁にゴミなどの詰まり	掃除	
	吸水弁・吐出弁の組立て不良	正しく組立て	
	吸水弁・吐出弁の傷つき・磨耗	修正・交換	
	吸水弁バネの損傷	交換	
	ピストンパッキンの損傷	交換	
	Oリングの損傷	交換	
シールパッキンの損傷	交換		
B 圧力が上がらない	吸水弁部	吸水量が不足している	(A)項を診断
	調圧装置	圧力調節が狂っている	正しく調整
		Oリングの損傷・磨耗	交換
		異物の混入	掃除
		バネの劣化・損傷	交換
C 噴射状態が悪い	吸水及び 加圧部	空気の混入(タンクの水位が不安定)	正しく調整
		吸水量の不足・不安定	交換
		異物の混入	掃除
	調圧装置	弁・弁座の磨耗	交換
		異物の混入	掃除
		バネの劣化・損傷	交換
	ノズル部	ノズルの磨耗	交換
		ノズル・ガンの不適	適正なものに交換
異物の混入		掃除	
吐水ホース	吐水ホースが長い	適正な長さにする	
	吐水ホースが細い	適正な太さにする	
	ホースの接続部分からの水漏れ	補修・交換	
D 振動する	ノズル部	ノズルの詰まり	掃除

状	況	部	分	原因	対策
E	異常音がする			キーの緩み	交換
				コンロッドなどのボルトの緩み	増締
F	油漏れ・水漏れ			ベアリングの破損	交換
				調圧弁の組立不良	調整
		給水タンク		空気の吸い込み(吸水量の不足)	点検・補給
				リングの損傷	交換
				シールパッキンの損傷	交換
				オイルシールの損傷	交換

- (故障)とお考えになる前に再度ご確認ください。
- 点検しても正常にならない場合は、お求めの販売店か弊社営業所に修理を申し付けください。
- 交換部品は必ず純正品を使用してください。

18 エンジンの故障診断と処置について

エンジンの故障診断と処置は、日常起こりやすい故障と、その処置を示したものです。万一故障が起きた場合は、下記を参考の上、適切な処置を行なってください。

(1)エンジンが始動しない。

- ①燃料を点検します。
- ②エンジンオイルの状態を確認します。
- ③エンジンスイッチを“ON”にします。
- ④スパークプラグを点検します。(18ページ参照)
- ⑤エンジンが依然として始動しないときは、以下を点検します。

燃料経路の目詰まり。

エアフィルターの目詰まり。

異状が見つからない場合、お求めの販売店か弊社営業所にご相談ください。

株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL : 0120-176-181 (製品・技術的な問い合わせ)
受付時間: 弊社営業日 9:00~12:00 / 13:00~17:00

やまびこジャパン株式会社

〒198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL : 0428-32-6181 (代)

ご用命の際はご購入いただいた販売店へご連絡ください。

JEY1512-1002

(C)2024 株式会社やまびこ 著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。